

生徒指導部会

I. 研究の概要

1. 研究課題

「自らの生き方を築き上げる力を育てるための効果的な指導のあり方を考える」

2. 研究内容

学校教育に関わる諸問題が多様化している今日だが、新しい教育観・指導観・生徒観・学力観にたち、今までの研究の成果や体制を生かしながら今年度も下記のような具体的な柱を設定し、研究を推進していきたいと考えた。それぞれの柱について、個人や学校でレポートを作成し、分科会構成をして研究を進めていく。

【研究の柱1】

小学校における生徒指導の実態とその対応について、および中学校との連携、学校と家庭や地域、他機関との連携を深めるための手立て

【研究の柱2】

中学校における生徒指導の実態とその対応について、および小学校との連携、学校と家庭や地域、他機関との連携を深めるための手立て

【研究の柱3】

小学校、中学校におけるインターネットや携帯電話に関わる事件・事故および現状について

【研究の柱4】

児童生徒理解を深めるための手立て、および「いじめ・不登校」の早期発見とその対応について

3. 研究方法

(1) 交流計画

実践研究（個人、学校、市町村等）と研修活動（理論研、実技研、講演）および還流活動（情報、研究協議会、推進委員による実践交流等）の3本柱で研究・交流を進める。

(2) 分科会構成

【研究方法1】実践研究の進め方

- ・ 各市町村での研究実践の交流
- ・ 小中学校の交流会
- ・ 事例研究

【研究方法2】研修活動の進め方

- ・ 理論研修会
- ・ 実技研修会
- ・ 視察訪問研修会

【研究方法3】還流活動の進め方

- ・ 部会情報の発行
- ・ 推進委員による各市町村実態交流
- ・ 市町村第二次研究協議会

分科会構成は【研究の柱】に対応した4つとした。以下のキーワードをもとに話し合いを進めた。また、参加人数により、第二分科会を複数に分けて話し合いを実施した。

<研究キーワード>

【第一分科会】

指導体制、基本的生活習慣の定着、学級崩壊、児童虐待、情報収集、関係機関との連携 等

【第二分科会】

指導体制、基本的生活習慣の定着、学級崩壊、児童虐待、情報収集、関係機関との連携 等

【第三分科会】

インターネット、掲示板、携帯電話、プロフ、SNS LINE 等

【第四分科会】

いじめ、不登校、個別支援、指導体制、教育相談、カウンセリング、コミュニケーションをとるための工夫 等

(3) 研究協議会の内容・方法

研究協議会については、1日日程で実施する。午前は講演会を実施し、午後は研究の柱ごとに分科会に分かれての討議を中心に進めていく。

II. 実践研究の経過と成果

1. 実践研究の経過

(1) 部会役員研修会による研究経過

- 5月 8日 (月) 第1回役員研修会
平成29年度の研究計画と研究内容の確認
第1回推進委員研修会
市町村推進委員の確認、平成29年度の研究計画について
- 5月22日 (月) 第2回役員研修会、推進委員研修会
研究協議会における分科会競技内容についての検討
- 6月26日 (月) 第3回役員研修会、推進委員研修会
研究協議会に向けての役割分担などについて
- 8月 8日 (火) 第4回役員研修会
分科会会場との事前協議
- 8月18日 (金) 第5回役員研修会
研究協議会における分科会におけるレポート交流後の確認
- 8月28日 (月) 第6回役員研修会、第4回推進委員合同研修会
研究協議会分科会における司会者および記録者の協議
- 9月 5日 (火) 石教研「生徒指導部会」課題部会研究協議会
「講演会」における学習会、「分科会」による研究協議
第7回役員研修会
研究協議会における成果と課題についての交流、洗い出し
- 11月10日 (金) 石教研「生徒指導部会」実技研修会
「北海少年院ならびに紫明女子学院の施設見学と生徒指導理論の研修」
第8回役員研修会
実技研修会における成果と課題についての交流、洗い出し

2. 課題部会研究協議会での交流

(1) 課題部会研究協議会での交流内容（分科会会場 北広島市立大曲中学校）

○実践・レポート交流の様子

【研究内容1】小学校における生徒指導の実態とその対応について、および中学校との連携、
【分科会A】学校と家庭や地域、他機関との連携を深めるための手立て

司会	北広島市立北の台小学校 和泉 亜紀 教諭	記録	北広島市立大曲小学校 池田 法夫 教諭
----	----------------------	----	---------------------

- (1) 自己紹介
- (2) レポート発表
- ・複数対応が重要 「一人で抱えこまない」→情報の共有化が大切
 - ・マニュアルを基本とすれば、足並みをそろえた指導ができる。
 - ・問題行動の記録化 → 情報の共有化
- (3) 全体交流
- ・子どもの困難は保護者の影響が大きい→職場のチームワークが大切
 - ・学校不適應の子への対応 →信頼関係の構築、他機関との連携、組織で対応
 - ・学級に対応できない児童への指導
→叱るタイミング、周りの子への配慮、他機関との連携、確実な引継ぎ

**【研究内容1】小学校における生徒指導の実態とその対応について、および中学校との連携、
【分科会B】学校と家庭や地域、他機関との連携を深めるための手立て**

司会	恵庭市立和光小学校 栗野 友介 教諭	記録	恵庭市立和光小学校 山谷 義久 教諭
<p>(1) 自己紹介</p> <p>(2) レポート発表</p> <ul style="list-style-type: none"> ○千歳A小学校 時間厳守ができていない状況への対応 ○千歳B小学校 指導體制～全教職員で情報を共有する難しさ ○千歳C小学校 マンモス校ということもあり、情報共有が難しい ○千歳A中学校 あいさつ、他機関との連携 ○恵庭A小学校 大規模校としての情報共有が難しい。担外との連携を重点 ○北広島A小学校 具体的事例→保護者との対応の難しさ ○石狩A小学校 金銭問題等 情報共有が難しい→報告用紙の活用 ○石狩B小学校 算数TT、少人数指導で自己肯定感を高める <p>(3) 討議の柱（シンキングツールを活用して）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○授業妨害、人間関係等 ○不登校、郊外生活、問題行動等 			

**【研究内容2】中学校における生徒指導の実態とその対応について、および小学校との連携、
【分科会A】学校と家庭や地域、他機関との連携を深めるための手立て**

司会	千歳市立北斗中学校 穂積 泰央 教諭	記録	千歳市立北斗中学校 松浦 未郁 教諭
<p>(1) 自己紹介</p> <p>(2) レポート発表</p> <ul style="list-style-type: none"> ○千歳A中学校 支援が必要な生徒を全教員が把握。ネグレクト～外部との連携 ○恵庭A中学校 不良行為は少ない。ネット指導→新入生説明会で保護者へ啓蒙 ○北広島A中学校 中学校の実践を小学校にも伝え、小中の指導の差を減らす。 ○江別A中学校 自転車での接触事故。頭髪指導の指導ラインが微妙な部分がある。 ○石狩A中学校 生徒は前向きに進んでいても、保護者の協力を得られない例もある。 <p>(3) 討議の柱（シンキングツールを活用して）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○授業中に集中できない生徒について ⇒ 担任・教科担との交流、明確な指示 ○生徒のできる子、できない子の二極化 ⇒ 担任任せだけにしない。様々な関わり。 ○不登校生徒への対応 ⇒ 家庭訪問、電話連絡、行事参加への促し 			

**【研究内容2】中学校における生徒指導の実態とその対応について、および小学校との連携、
【分科会B】学校と家庭や地域、他機関との連携を深めるための手立て**

司会	恵庭市立恵み野中学校 伊藤 弘 教諭	記録	恵庭市立恵み野中学校 本間 晶人 教諭
<p>(1) 自己紹介</p> <p>(2) レポート発表</p> <ul style="list-style-type: none"> ○千歳A中学校 不要物への対応、自転車の事故、ネットトラブル ○千歳B中学校 不登校対応、自転車通学のマナー徹底、専門家を招いたネット指導 ○恵庭A中学校 保護者がトラブルの原因になるケース、ネットトラブル ○恵庭B中学校 SNSトラブル、依存症の心配、校則改正 ○北広島A中学校 小中が一体となった指導體制 ○江別A中学校 インターネットトラブル、不登校生徒の対応 ○石狩A中学校 他校とのトラブル(特定の生徒がトラブル) <p>(3) グループ討議（シンキングツールを活用して）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○特定のモデル生徒を設定した討議 <ul style="list-style-type: none"> ・保護者も巻き込んだトラブルへの対応 ・強く叱ると不登校になる子への対応 			

【研究内容2】中学校における生徒指導の実態とその対応について、および小学校との【分科会C】連携、学校と家庭や地域、他機関との連携を深めるための手立て

司会	石狩市立石狩中学校 伊藤 洋明 教諭	記録	石狩市立石狩中学校 川口 渡 教諭
<p>(1) 自己紹介</p> <p>(2) レポート発表</p> <ul style="list-style-type: none"> ○千歳A中学校 自転車絡みの事故、2分前行動を学校全体で意識 ○千歳B中学校 保護者の問題によって、学校に来られない生徒が増えている。 ○恵庭A中学校 校則などは無い。自分達で気づけることを伝統としている。 ○恵庭B中学校 不登校生徒の増加傾向。スマホの使い方の指導に苦慮している。 ○北広島A中学校 小中一貫した活動。ノーメディアDAYなどにも力を入れる。 ○北広島B中学校 いじめについての集会で、小学校と連携している。 ○石狩A中学校 他校とのトラブル有。小学校への出前授業で連携。 <p>(3) グループ討議</p> <ul style="list-style-type: none"> ○多様化してきた不登校について ○テストの点数について ○人の物をかくしてしまう生徒への対応について ○無気力の生徒への指導について 			

【研究内容2】中学校における生徒指導の実態とその対応について、および小学校との【分科会D】連携、学校と家庭や地域、他機関との連携を深めるための手立て

司会	江別市立大麻東中学校 浜本 伸 教諭	記録	千歳市立向陽台中学校 鈴木 敦司 教諭
<p>(1) 自己紹介</p> <p>(2) レポート発表</p> <ul style="list-style-type: none"> ○千歳A中学校 自転車絡みの事故、不要物への持ち込みの指導 ○千歳B中学校 保護者の問題によって、学校に来られない生徒が増えている。 ○恵庭A中学校 生徒数の増加により教師の出入りが多く、連携が大切。 ○北広島A中学校 近年になく落ち着いている。ノーメディアDAYなどにも力を入れる。 ○江別A中学校 小学校との連携がうまくいっている。 ○石狩A中学校 落ち着いているものの、地域性から危機感をもち、教職員が共有し同行動を取っていくことが大切。 ○石狩B中学校 別室対応の生徒についての対応 <p>(3) グループ討議</p> <ul style="list-style-type: none"> ○忘れ物、グレーゾーンの生徒への対応、性犯罪について ○不登校、時間にルーズな生徒の指導、自律・気づきの指導 ○SNSトラブル、学校で寝るなど家庭生活が安定していない生徒への対応 ○不登校について 			

【研究内容2】中学校における生徒指導の実態とその対応について、および小学校との【分科会E】連携、学校と家庭や地域、他機関との連携を深めるための手立て

司会	千歳市立青葉中学校 坪川 将洋 教諭	記録	千歳市立青葉中学校 植村 真湖 教諭
<p>(1) 自己紹介</p> <p>(2) レポート発表</p> <ul style="list-style-type: none"> ○千歳A中学校 家庭環境で苦勞している生徒の対応 ○千歳B中学校 窃盗事件の対応 ○恵庭A中学校 アンガーマネジメントを意識した指導 <p>(3) グループ討議</p> <ul style="list-style-type: none"> ○場面緘黙症の生徒の対応 ○学校・家庭・関係機関の連携 ○他機関からのアプローチ ○自閉的傾向、対人トラブルへの対応 			

【研究内容2】中学校における生徒指導の実態とその対応について、および小学校との【分科会F】連携、学校と家庭や地域、他機関との連携を深めるための手立て

司会	江別市立江陽中学校 森川 あゆ美 教諭	記録	石狩市立花川中学校 岩田 健吾 教諭
<p>(1) 自己紹介</p> <p>(2) レポート発表</p> <ul style="list-style-type: none"> ○千歳A中学校 指導の一貫性。グレーゾーンを消して生徒につけているすきを与えない。 ○千歳B中学校 生活アンケートでスマホ所持率や家庭のルールを把握する。 ○恵庭A中学校 保護者の考え方が多様化して指導に困る場面もある。SNSトラブル ○北広島A中学校 ネット利用の約束を小中連携している。 ○北広島B中学校 小中一貫した指導内容 ○江別A中学校 不登校生徒への対応。交通ルール(自転車の乗り方)の徹底。 ○江別B中学校 スマホ所持層の低年齢化→SNSトラブルの原因。 ○石狩A中学校 大きな問題はないが、指導を理解できない生徒が多い。 <p>(3) グループ討議 (シンキングツールを活用して)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○保護者との連携 ○無気力な生徒に対する対応 ○特別な支援を要する生徒への対応 			

【研究内容2】中学校における生徒指導の実態とその対応について、および小学校との【分科会G】連携、学校と家庭や地域、他機関との連携を深めるための手立て

司会	千歳市立青葉中学校 佐々木 智章 教諭	記録	千歳市立青葉中学校 津村 綾子 教諭
<p>(1) レポート交流</p> <ul style="list-style-type: none"> ○千歳A中学校 複雑な家庭環境に関わる問題、不登校生徒への対応 ○千歳B中学校 時間を意識した行動、完全制服登校の取り組み ○恵庭A中学校 生徒数の増加に伴い、問題を抱えた生徒や保護者の増加 ○北広島A中学校 ネットモラル指導、完全制服登校実施、ネットモラル指導 ○北広島B中学校 小中一貫教育に伴い、様々な面で連携している。 ○江別A中学校 ネットモラル指導、不登校指導 ○石狩A中学校 他機関との連携 <p>(2) グループ討議</p> <ul style="list-style-type: none"> ○具体的な生徒をイメージした指導について <ul style="list-style-type: none"> ・縮毛矯正の生徒対応 ・思い通りにならないとパニックになる生徒への指導 ・勉強もスポーツも良くできるがいじめをする生徒への指導 ・保健室登校生徒への指導 ・起立性調節障害の生徒への対応 			

【研究内容2】中学校における生徒指導の実態とその対応について、および小学校との【分科会H】連携、学校と家庭や地域、他機関との連携を深めるための手立て

司会	江別市立大麻中学校 本間 崇弘 教諭	記録	江別市立大麻中学校 青木 理 教諭
<p>(1) レポート交流</p> <ul style="list-style-type: none"> ○恵庭A中学校 ネットトラブルが絶えない。 ○北広島A中学校 男女関係に関わるSNSトラブル ○江別A中学校 保護者絡みの対応 <p>(2) グループ討議 (シンキングツールを活用して)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○家庭環境への関わり →関係機関との連携 ○不登校事例 ○コミュニケーションが取れない生徒への対応 			

【研究内容2】中学校における生徒指導の実態とその対応について、および小学校との【分科会I】連携、学校と家庭や地域、他機関との連携を深めるための手立て

司会	石狩市立花川南中学校 稲澤 健 教諭	記録	石狩市立花川南中学校 高瀬 淳基 教諭
<p>(1) レポート交流</p> <ul style="list-style-type: none"> ○千歳A中学校 コミュニケーション能力の向上と発揮を目指している。 ○千歳B中学校 各学年に応じた警察署の講演 ○北広島A中学校 完全制服登校、ネットモラル指導、部活内ライントラブル ○江別A中学校 ライントラブル、スマホの校内持ち込み ○江別B中学校 地域からのクレーム(公園の利用)、小学生とのトラブル ○石狩A中学校 児童館でのトラブル、ネットトラブル <p>(2) グループ討議(シンキングツールを活用して)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○保護者対応の事例交流 ○ネットトラブル対応の事例交流 ○具体的な生徒への対応の指導交流 <ul style="list-style-type: none"> ・提出物を出さない生徒 ・基本的な生活習慣が身につけていない生徒 ・不登校傾向の生徒 ・虚言癖のある生徒 			

【研究内容2】中学校における生徒指導の実態とその対応について、および小学校との【分科会J】連携、学校と家庭や地域、他機関との連携を深めるための手立て

司会	当別町立当別中学校 三田 智郎 教諭	記録	当別町立当別中学校 高橋 周平 教諭
<p>(1) レポート交流</p> <ul style="list-style-type: none"> ○恵庭A中学校 全体的に落ち着いている。毎週、部長・管理職で情報交流。 ○北広島A中学校 異性交遊について問題 ○北広島B中学校 縦割り交流が生徒の中に思いやりの心を育てるのにつながっている。 ○江別A中学校 素直に謝ることのできない生徒が増えている。 <p>(2) グループ討議(シンキングツールを活用して)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○不登校について ○いじめ問題について ○落ち着きのない生徒の対応について 			

【研究内容3】小学校、中学校におけるインターネットや、携帯電話に関する事件・事故、および現状について

司会	当別町立西当別中学校 池田 陽彦 教諭	記録	当別町立西当別中学校 目黒 槇栄 教諭
<p>(1) 自己紹介</p> <p>(2) レポート交流</p> <ul style="list-style-type: none"> ○千歳A小学校 学校関係者の名を検索し、画像を流用するなどのネットトラブル ○江別A中学校 携帯所持率7割強。寝室に持ち込まない、夜9時以降は触らないなどの決まりごとのある家庭もあるが、学校としては徹底できていない。 ○江別B中学校 携帯所持率は年々増加傾向。 ○石狩A中学校 携帯所持率、1年6割2年6割3年7割。学年をまたがるトラブル有 ○石狩B中学校 3年生、スマホ所持率8割 ○石狩C中学校 「ネットを利用しすぎると学力が下がる」を啓蒙。 ネットパトロールを継続的に取り組んでいる。 <p>(3) グループ討議(シンキングツールを活用して)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○現在、直面している生徒指導について交流し、意見を出し合った。 <ul style="list-style-type: none"> ・裏で悪口を言う生徒 ・気持ちの浮き沈みの激しい生徒(不登校傾向) など 			

【研究内容4】児童生徒理解を深めるための手立て、および「いじめ・不登校」の早期発見とその対応について

司会	千歳市立駒里中学校 島貫 哲郎 教諭	記録	千歳市立高台小学校 東 汐里 教諭
<p>(1) レポート交流</p> <ul style="list-style-type: none"> ○千歳A小学校 比較的落ち着いているものの、落ち着きのない学年がある。 ○千歳B小学校 転校生がなかなか登校できていない事例 ○千歳C小学校 不登校児童の対応、保護者との関係も良くなく、適応指導教室も視野。 ○千歳D中学校 不登校生徒の対応、進学問題、家庭訪問 ○千歳E小学校 家出生徒の対応、不登校生徒→医療機関（登校刺激×）とのずれ ○千歳F中学校 不登校生徒の対応、医療機関と相談→「オアシス」 ○千歳G中学校 不登校生徒の対応、保護者・地域・学校の密接な連携で登校 ○千歳H中学校 不登校生徒の対応、人数が多く困っている。 ○恵庭A小学校 不登校児童の対応、保健室登校、母親と登校 ○恵庭B小学校 生徒指導交流で情報を交流 ○恵庭C中学校 いじめアンケート→面談→対応 ○北広島A中学校 SNSトラブル、不登校生徒の対応（自閉傾向、昼夜逆転） ○江別A小学校 不登校児童の対応、教頭・担外等も協力して対応 ○江別B小学校 不登校児童の対応、保護者も容認→理解を求め、少しずつ改善 ○江別C小学校 不登校児童の対応、学校全体で取組、ゼロに！ ○江別D中学校 不登校生徒の対応、適応教室との連携→不登校が解消された ○石狩A小学校 問題行動が多い。暴力振るう児童→特別支援が必要 ○石狩B小学校 インターナショナルスクールに通う児童 ○石狩C中学校 不登校生徒の対応、怠学傾向→行事など積極的に参加する面を生かす ○石狩D中学校 みえないトラブル、SNS、ゲーム、ネットトラブル <p>(2) グループ討議（シンキングツールを活用して）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○保護者との連携について ○おしゃべりの止まらない子への対応について ○自己肯定感を高める指導について ○コミュニケーションをうまく取れない生徒への対応について 			

(2) 成果と課題

各校の課題や生徒指導の実践交流を通して、様々な視点から生徒指導に関わる考えや理解を深めることができた。特に、今年度はYチャートを利用することで、日々の指導の上での悩みや実践を多く交流することができた。多くの部会員から交流が活発になったと好評であった。

一方で、分科会によっては前半のレポート交流に時間を要し、グループ討議の時間が足りなかったなどの課題も上がった。時間配分やシンキングツールのわかりやすい説明など、今後もより活発な交流の場となるよう工夫改善が必要である。



Ⅲ. 講演会（実技・理論研修会）

1. 講演会（理論研修会）の内容 【会場：北広島市ふれあい学習センター「夢プラザ」】

「北海少年院の紹介と生徒指導について」という演題で、北海少年院の院長である後藤里香氏をお招きし、講演していただいた。

少年院とは、決して罪を償わせるところではなく、更生させるために矯正教育を受けさせるところであること。非行少年に対して、様々な配慮をしながら指導している点は、我々の教育現場にも共通することが多く、大変参考になった。なかなか知る機会の無い少年院の仕組みや生活の様子を知ることができた。



2. 実技研修会の内容 【会場：北海少年院・紫明女子学院】

11月10日（金）、実際に千歳市にある施設を訪問し「北海少年院ならびに紫明女子学院の施設見学と生徒指導理論の研修」を行った。

施設の概要の説明を受けた後、実際に施設を見学させていただいた。居住スペースは、寮の形で運営されており、集団生活の中で更生していく様子がわかった。

3. 理論研修会・実技研修会における成果

日々非行少年と向き合っている少年院の方々が、どのようなことに気をつけて少年達と関わりを持っているかを知ることができた。我々の教育現場にも共通することが多く、更生させるために、一人ひとりの子どもに向き合った指導の方法は、実に学ぶことの多い内容であった。

現在は、入所者数が減っているものの「反社会的な少年よりも様々な心の悩みを抱えた少年が多い」というお話を聞き、改めて指導の大変さを垣間見ることができた。

Ⅳ. 部会研究の成果と課題

1. 成果

昨年に引き続き「効果的な指導」を研究課題に掲げ、複雑化している諸問題に対応できることを目標に研修を積んできた。今年度は、普段あまり接点のない「北海少年院・紫明女子学院」についての研修を深めることができた。問題を抱えた少年一人ひとりに向き合う指導を知ることができ、見聞を広めることのできた研修会となった。

また、分科会の中で、日々の実践につながる交流をすることができたことも大きな成果と言える。導入して3年目となったシンキングツールの手法も浸透しており、交流が活発になっている。具体的な児童・生徒の姿をイメージして、実践交流を行うことができたのは大きな成果と言える。

2. 課題

複雑化している様々なトラブルに対して、適正かつ効果的な指導ができるように、私たち教職員は広い視野を持って日々研修していかなければならない。研究協議会におけるグループ討議の中では、SNSトラブルへの対応が話題に多く上がっていた。生徒指導部会としても、継続して検討していかなければならない今日的な課題であると捉えている。

今後も、教職員間の交流が活発になるよう工夫したり、見聞を広める機会を増やしたりするなど、日々の実践につながるような研修を深めていく必要がある。

（文責 佐瀬 智之）